

まちの課題に悩む自治体を応援する新しい取り組み！ 公共空間活用を学び実践する公務員向けスクール開催

国土交通省東北地方整備局建政部では、東北地方の自治体職員を対象とした「公共空間を活用した新しい機能導入スクール（仮称）」を開講します。

まちの課題解決に向けては、公民連携により公共空間を魅力的な空間として活用し、新しい取組をまちなかで実施していくことが必要です。本スクールでは、公共空間活用のノウハウを学ぶ場を提供し、現場で実践することを支援します。

この度、この受講生の募集を開始することとしましたのでお知らせします。

<プログラム内容>

○書籍による事前学習、専門家による講演のほか、実践エリアの現地視察会、公共空間の活用プランづくりに関するグループワーク、成果発表会等を予定（2018年11月～2019年3月まで、全3回を予定。2019年度も引き続き実施予定。）。

<参加要件>

○効果的な活用が目指されるべき公共空間があり、これを利用してまちなかでこれまでにない取組を実施し、まちなかに新しい機能を導入することで、活性化を検討している自治体職員 等

<募集人数> 若干名

※ 応募多数の場合は、応募用紙を審査の上、決定させていただきます。

<開催場所> 第1回：岩手県二戸市、第2・3回：宮城県仙台市を予定

<参加費> 無料

※ 交通費・宿泊費・食費等が発生する場合は各自負担となります。

<申し込み方法> ウェブサイトより入力

<申し込み期限> 平成30年11月8日（木）17:00 必着

詳細は、別添1「公共空間を活用した新しい機能導入スクール（仮称）募集要領」参照。

<発表記者會：宮城県政記者会、東北電力記者クラブ、東北専門記者會・その他（無所属）>

<問い合わせ先>

国土交通省 東北地方整備局

建政部 都市・住宅整備課 課長 小林 孝

電話：（代表）022-225-2171

「公共空間を活用した新しい機能導入スクール（仮称）」

募集要領

1. 目的

東北地方ではまちなかの衰退等が課題となっている中、街路、河川、公園、広場、行政施設等の公共空間を活用した活性化など、公民連携のまちづくりが全国に広がっています。まちなかに活力を取り戻すためには、公共空間等を利活用して公民連携によりこれまでになく取組を実施し、新しい機能をまちなかに導入していくことが有効な方法のひとつです。

本スクールは、東北地方の自治体職員を対象に、公共空間の活用を通じた新しい機能導入等に主体的に取り組み、これを実践していただくことを支援します。

2. プログラム内容とスケジュール（案）

2018年度と2019年度の2カ年で実施する予定です。

- ・11月8日 受講者募集締め切り
- ・11月中 受講者決定・通知
課題図書（数冊）を読み、1000文字程度のレポートを課題図書毎に作成
- ・12月17日、18日 第1回目スクール／集合研修によるグループワーク
（17日10:30開始、18日19:30終了予定）
【会場】岩手県二戸市内 おぼない旅館

全体総括、進行役：（一社）公民連携事業機構理事 木下齊

ライブアクト（講演）：株式会社 GUILD 代表取締役、SDC 株式会社 代表取締役 本郷紘一

（一社）公民連携事業機構理事 岡崎正信

グループワークメンター：太陽の森ディマシオ美術館常務理事、公民連携事業研究センター副センター長兼上級研究員

谷本晃一

公民連携事業研究センター主任研究員 小堀啓

仙台市都市整備局公共建築部営繕課技師、公民連携事業研究センター上級研究員 洞口文人

合宿現地コーディネーター：二戸市総務政策部政策推進課副主幹兼地方創生推進監兼政策推進係長、公民連携事業研究センター研究員 五日市寿丸

※講師の詳細は参考資料参照。

- ・1月某日 第2回目スクール／リアルな実地研修
（1月上旬の土曜日もしくは日曜日で調整中。13:00～20:00 予定）
【会場】仙台市内

案内役、現地コーディネーター：せんだいリノベーションまちづくり実行委員会委員長 小島博仁

- ・2月4日 第3回目スクール／プレゼンテーション

【会場】 仙台市内を想定

全体総括、進行役：木下齊（再掲）
メンター：谷本晃一、小堀啓、洞口文人（再掲）

・3月までに 各自治体での庁内報告会

<以降、2019年度にかけて試案に基づいた社会実験の実施（予定）>

3. 参加要件

東北地方整備局管内の以下条件を満たす自治体職員等

- 効果的な活用が目指されるべき公共空間があり、これを活用してまちなかでこれまでになく取組を実施し、まちなかに新しい機能を導入することで、活性化を検討している
- スクールの全プログラム（合宿・事前学習を含む）へ参加が可能
- 2ヵ年で実施する予定であるため、年度を跨いで参加できる職員または後任が参加できる体制が整っている
- 社会実験フィールドを提供してもらう可能性があるため、自治体内部で社会実験を実施するための調整を実施できる、あるいはバックアップ体制が整っている
- 新しい知識を吸収し、前向きにまちの課題を解決しようとする意欲がある

4. 募集人数

若干名 ※参加申込書を基に選考を行います。

1自治体から複数部局の職員が集まって応募することを推奨します。

5. 参加費用

スクール参加費用は無料ですが、交通費・宿泊費・食費等は各自負担となります。

6. 注意事項

- ・年度を跨ぐため、人選にあたっては留意をお願いします。
- ・県毎にグループを編成する予定であり、グループ毎に社会実験の案を検討します。そのため、県内他自治体の社会実験に参加して頂く可能性があります。

7. 申し込み方法

以下ウェブサイトを利用ください。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSe28FJs4V__cnkWdX4auv0XzVUBS-zo2Eh7Xm6A6xUmOACuiw/viewform?usp=sf_link

8. 質問について

不明な点があれば、以下までご連絡ください。

東北地方整備局 建政部 都市・住宅整備課 石井・大場
電話：022-225-2171（代表）（内線 6165）

以上

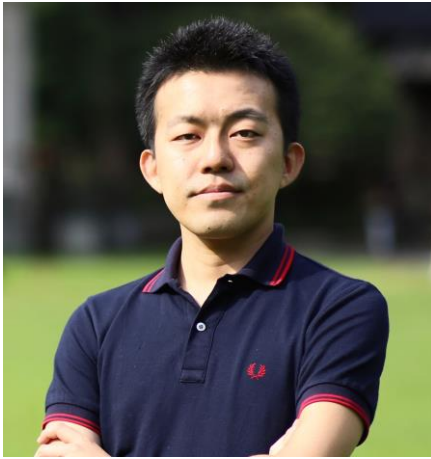
(参考) 全体総括の略歴

木下齊氏

一般社団法人エリア・イノベーション・アライアンス代表理事、内閣官房地域活性化伝道師、熊本城東マネジメント代表取締役等。

1982年東京生まれ。早稲田大学政治経済学部政治学科卒業、一橋大学大学院商学研究科修士課程（経営学修士）修了。高校1年時より商店街活性化に取り組む早稲田商店会のプロジェクトに参画。2000年、高校3年時に全国商店街の共同出資会社・株式会社商店街ネットワークの設立に参画、初代社長に高校生で就任。同年、新語・流行語大賞を「IT革命」にて受賞。その後、経済産業研究所や東京財団の研究員等を務め、毎日新聞社フジタ未来経営賞学生奨励賞、商工総合研究所論文賞等を受賞。

<参考資料>



木下 斉【全体総括、進行役】

一般社団法人エリア・イノベーション・アライアンス代表理事、内閣官房地域活性化伝道師、熊本城東マネジメント代表取締役 など

高校時代より早稲田商店街の活性化事業に参画、平成12年に全国商店街の共同出資会社である株式会社商店街ネットワークを設立、初代社長に就任。平成20年より熊本城東マネジメント株式会社をはじめとして全国各地でまち会社の

立ち上げ、再生に従事。平成22年、これら全国各地のまち会社と共に、事業開発の一体的推進を行うため一般社団法人エリア・イノベーション・アライアンスを設立、代表理事就任。内閣官房地域活性化伝道師。



岡崎 正信【講演者】

一般社団法人公民連携事業機構理事、オガールプラザ(株)、オガールベース(株)、オガールセンター代表取締役

1972年生まれ。岩手県紫波町出身。日本大学理工学部土木工学科卒業、東洋大学大学院経済学研究科公民連携専攻修了。地域振興整備公団(現：都市再生機構)入団後、建設省都市局都市政策課などで地域再生業務に従事。現在は家業の岡崎建設(株)専務取締役のほか、オガールプロジェクトの中核である、オガールプラザ(株)、オガールベース(株)、オガールセンター代表取締役として、紫波町の公民連携事業を企画推進している。同プロジェクトは、「2013年土地活用モデル大賞」において、最高賞の国土交通大臣賞を受賞するなど、注目を集めており、全国各地の地域づくり指導に奔走している。2011年日本を立て直す100人に選出。

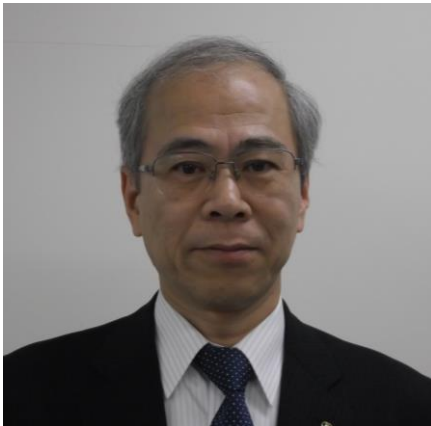


本郷 紘一【講演者】

クリエイティブシンカー
SDCinc 代表取締役
株式会社 GUILD 代表取締役

1982 年生まれ。宮城県出身。
25 歳で起業、美容室やネイルサロン、飲食店経営の GUILDinc と、まちづくり会社 SDCinc の 2 社を経営。「A cup of coffee fills our city.

一杯のコーヒーが街を豊かにする」の理念を掲げ、移動式コーヒーショップ SENDAI COFFEE STAND で仙台の街角をおしゃれに彩る。仙台の街でコーヒーを入れ続けながらも、美容室やマルシェを通した街づくりをローカルに行っている。公園を補助金なしで市民の手でリノベーションする仕組みを生み出したり、定禅寺通りでの COFFEE FES では 23,000 名の集客、街の公園と公園を繋いだ GREEN LOOP SENDAI では 70,000 名を集客し、公共空間の利活用も行っている。



小島 博仁【案内役、現地コーディネーター】

せんだいリノベーションまちづくり
実行委員会委員長

1955 年福島県生まれ。1979 年東京理科大学理工学部建築学科卒業。2016 年 3 月まで仙台市役所に勤務。2012 年より都市整備局長として民間主導・行政参加の公民連携をテーマに「せんだいリノベーションまちづくり」を推進。退職後もパブ

リックマインドをもった事業者市民とともに仙台の都市・地域経営課題を解決するリノベーションまちづくりに取り組んでいる。



五日市 寿丸【合宿現地コーディネーター】

二戸市総務政策部政策推進課副主幹兼地方創生推進監兼政策推進係長、公民連携事業研究センター研究員

1972 年岩手県二戸市生まれ。近畿大学商経学部経営学科卒業。1995 年二戸市に入庁。商工観光課、財政課等を経て 2014 年政策推進課に配属。2016 年より二戸市で取組が始まった公民連携事業の主担当として当初よりプロジェクトに参画。二戸市公民連携基本計画の策定(2017)や、金田一温泉プロジェクトを実施するまちづくり会社の設立(2018)に携わる。公民連携プロフェッショナルスクール(3期生)修了。



谷本 晃一【グループワークメンター】

太陽のディマシオ美術館常務理事、公民連携事業研究センター副センター長兼上級研究員

1971年大阪生まれ。1995年米テキサス州立ヒューストン大学ホテル&レストラン経営学部卒業。2013年北海道新冠町に移住。2015年役場企画課観光振興プロデューサー就任。2018年4月より太陽のディマシオ美術館常務理事。フロンティア合同会社代表。現在、東洋大学大学院経済学研究科公民連携専科に在学中。公民連携プロフェッショナルスクール（1期生）修了。



洞口 文人【グループワークメンター】

仙台市都市整備局公共建築部営繕課技師、公民連携事業研究センター上級研究員

1985年宮城県生まれ。法政大学大学院工学研究科建設工学専攻修了。建築設計事務所を経て、地元宮城県にUターンし、2013年仙台市に入庁。都市整備局都市再開発課に配属され、スクラップアンドビルド（ハード型再開発）に頼らずに、利活用されていない空間を利活用する（コンテンツ型再開発）を提案し、「せんだいリノベーションまちづくり」をスタートさせた。主に公民連携事業/PPPの企画・支援を行い、定禅寺通における公民連携プロジェクト『GREEN LOOP SENDAI』を推進。プライベート活動では、『せんだい洛中洛外図』の製作や築60年の古民家と周辺の緑道を再生させた『複合古民家実験住宅 -TateshitaCommon-』などがある。公民連携プロフェッショナルスクール（2期生）修了。



小堀 啓【グループワークメンター】

公民連携事業研究センター主任研究員
女子限定！リノベプロジェクトサポーター

1976年岩手県生まれ。北海道工業大学（現北海道科学大学）工学部建築工学科卒業。建設会社勤務、水泳指導員、喫茶店経営を経て2002年建築職として岩手県庁に入庁。主に建築確認審査、住宅政策を担当。2010年から2年間国土交通省へ出向。2014年に空き家担当となり「岩手県空き家等活用人材育成支援事業」を企画、「いわてリノベーションシンポジウム」や「いわてリノベーションスタディ」を開催。また「女子限定！リノベプロジェクト（女子リノベ）」のサポーターとして公民連携によるまちづくりを推進。なお女子リノベは国土交通省「民間まちづくり活動促進事業」に採択され、東京都東村山市で開催が決定。公民連携プロフェッショナルスクール（1期生）修了。